

# 佐藤 桂さん

元・名村造船（佐賀県）



11月14日、佐賀県で初めて開催された女子溶接技術競技会で審査にあたった佐藤さんは「13人の選手たちは皆、健闘し、どの作品も意外と良かった」

大会に先駆け10月には出場者全員を指導。「とにかく楽しみなさい」と声を掛けた。「女性の方が忠実にものごとを進める人が多いようで、溶接に向いている人も多いのかも」と微笑む。

秋田県出身で1995

6年生まれの64歳。長年、造船ドックの溶接業務一筋に携わり、91年には第37回全国溶接技術競技会被覆アー

ク溶接で日本一に輝き、翌年の同大会では炭酸ガス半自動アー

ク溶接の部で優良賞を獲得する。全国や九州の競技会での輝かしい実績に

より2000年、2人目の九州溶接マイスターに認定されるとともに、高度熟練技能者（01年）、現代の名工（08年）、そして10年には黄綬褒章を受章した。

のづくりマイスター（14年認定）として、若年層の育成、特に工業高校を中心とした学生らの技術指導、支援に専念している。

佐藤さんは「感性を表現できる溶接はとにかく楽しい。しかも溶接を通じて成長していく若者と接することは楽しく、かつ指導者の喜び。日々彼らのパワ

ーを貰っている」と、技能伝承への格別の想いを言葉にする。「私たちの修業時代は先輩たちからある意味一方的に技能・技術を叩き込まれたが、スマホ時代に育った学生は、自ら答えを導き出す術には長けている。

九州溶接界を代表する匠は、名村造船を定年退職後、佐賀県のみならず、自らの経験で得

た知識という引き出しの中から判断し最善の手法を選択しなければならぬ。言わば自分で完成形を創造しながら試行錯誤する世界。

だからこそ、スマホで答えを導き出せる感覚に近づけるよう、ストーリー立てて教えていくことが大切だ」

佐賀県の高校生溶接競技会を、立ち上げる数年前から情熱を持って携わってきた。生徒への指導はもちろん、教員らに「溶接は面白いと気付かせるべく、地道な種まき活動を続けてきた。その結果、生徒・教員らがその気になり、九州高校生競技会への推薦出場を契

機に、機運は一気に高まり佐賀県大会開催へと突き進んだ。

もう一つ佐藤さんにとってもうれしい思い出がある。学業の成績があまり芳しくなく、学校も休みがちだった生徒の親から「うちの子が最近変わった。学校に行くのが楽しいらしい。佐藤さんに溶接を教えてもらうのを楽しみにしている」と。しかも成績も向上したというのだ。

佐藤さんの指導法はマニュアル通りでは無い。自身の経験談や雑談を交えながら、溶接がいかに社会とつながっているのか、重要なのか、いかに素晴らしいのか、などを語りかけ、運棒や機械操作でいろんな溶接現象を体感させながら「だから溶接は面白く、奥が深いんだよ」と教える。

時にはいきなり向上き溶接の神業を披露することもある。「溶接の面白さを知り、答えの導き出し方を知るのと、彼らは目を輝かせ

る」

溶接技量はもちろん、明るく面倒見の良い人柄を慕う生徒や卒業生も多く、自然に人が集まる。「若い彼ら彼女たちには、どんなことでも良いから自分の輝きを發揮できる場を見つけ、大いに楽しんでもらいたい。それが溶接だったら、私自身は最高だね」とも。今年からは新たに農業高校へも溶接指導するなど、マイスターは多忙な溶接伝道師でもある。

溶接技量はもちろん、明るく面倒見の良い人柄を慕う生徒や卒業生も多く、自然に人が集まる。「若い彼ら彼女たちには、どんなことでも良いから自分の輝きを發揮できる場を見つけ、大いに楽しんでもらいたい。それが溶接だったら、私自身は最高だね」とも。今年からは新たに農業高校へも溶接指導するなど、マイスターは多忙な溶接伝道師でもある。

溶接は面白く、奥が深いんだよ」と教える。

溶接は面白く、奥が深いんだよ」と教える。